



平成遣欧少年使節 ローマに立つ!

平成25年12月23日(月)〜30日(月)、クリスマスを迎えたイタリアを南島原市内の中学生4人を含む南島原市平成遣欧少年使節団が訪問しました。

使節団は430年前にローマを訪れた天正遣欧少年使節ゆかりの施設訪問や、キエーティ市でのホームステイで友好を深めました。

天正遣欧少年使節を探る!

430年前、ヨーロッパを訪れた天正遣欧少年使節は、日本で初めて南島原市に設立された「有馬のセミナリヨ」の第1期生です。今回は天正遣欧少年使節が実際に訪れたローマ各地を訪問し、430年前、同じ南島原で学んだ4少年の感動を共有しました。当時、4少年が訪問した地は、ローマ市内に当時の

キエーティ市で交流!

使節団は有馬のセミナリヨを創立したアレックスサンドロ・ヴァリニャーノの生地であるキエーティ市を訪れました。キエーティ市ではホームステイでの民間交流、市長との今後の交流に向けた協議を行いました。協議の中で、キエーティ市長は「長崎の教会群の世界遺産登録」に向けた支援やさらなる相互交流に向けて理解を示されました。

430年前の使節団は8年半も

キエーティはこんなところ

キエーティ市は、イタリア共和国中部のアブルツォ州の都市で、人口約5万1千人。キエーティ県の県都であり特産品はワイン。1580年、有馬にセミナリヨを創立し天正遣欧少年使節派遣を実行に移したヴァリニャーノはキエーティ出身であり、彼が生まれた建物は現在の市庁舎になっています。市庁舎前には彼の銅像が建てられていますが、昨年度、同じものが南島原市に寄贈され、現在は口之津港に設置されています。



復興への絆

東日本大震災災害派遣レポート

南島原市災害派遣職員 林 田 昭 義



歌津地区「平成の森仮設住宅」自治会長 島山扶美夫さんにインタビュー

今月は震災直後から地域のリーダーとして務めてこられた歌津地区「平成の森仮設住宅」自治会長の島山扶美夫さんにお話を伺いました。

「平成の森仮設住宅」は町内最大規模の仮設住宅団地で、約190世帯500人超の住民が生活されています。「平成の森」はもともと、野球場やテニスコートなどの多目的広場として使用されていましたが、震災直後から避難所として、その後、仮設住宅用地とし

て使用されています。

林田 震災直後の様子はいかがでしたか。

島山 帰宅困難者を含めると400人ほどがこちらに避難し、米軍のヘリに発見されるまでの3日間は孤立した状態でした。電気も水もなく、何をするにも苦労しました。

林田 避難所でもご苦労されたかと思いますが。

島山 もともとこちらには宿泊施設が隣接していたので、他の避難所に比べると比較的良い環境でした。ただ、ノロウイルスなどのまん延防止のため、食器の取り扱いなどに注意を払いました。幸い、ボランティアにより毎食約250人分の

食器を山形県から運搬していただいたため、病気がまん延することはありませんでした。

林田 仮設住宅の運営面で工夫されていることはありますか。

島山 運営は上手くいっています。細部まで規則で縛らないようにしているためか、住民間の風通しが良く、特に苦労はありません。

林田 最後に南島原市へメッセージをお願いします。

島山 私は今回の地震とチリ地震により、人生で2度津波を経験しました。自然災害はいつ起こってもおかしくありません。命を守るため、日ごろから危機管理意識を持つように心掛けてください。

林田 「平成の森仮設住宅」の住民が移転予定の高台の造成は、平成28年度ごろ完成予定です。これからも仮設住宅暮らしが続きますが、お体に気を付けてお過ごしください。

南三陸町と災害時応援協定を締結



2月4日、東日本大震災の被災地である宮城県南三陸町と「災害時相互応援協定」を締結しました。今後、どちらかで大規模災害が発生した場合、もう一方の自治体が職員の派遣や物資の提供、被災者の受け入れなどの支援を行います。

南島原市は震災後から同町へ職員派遣や、小中学生を招いた交流事業を実施するなど、独自の復興支援を続けています。調印式後、佐藤南三陸町長が、市職員に対して町の現状や復興の苦勞、課題などについて講演されました。特に「震災時には近隣自治体との応援協定は機能しなかった」と言われ、遠距離自治体との災害応援協定の重要性を強調されました。

南島原市はこれまでも近隣自治体と同様の協定を結んでいます。県外自治体との協定締結は今回が初めてとなります。